

学校経営推進費 事業計画書

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	1 中途退学率の減少 2 進級卒業率の向上 3 学校教育自己診断における生徒の入学満足度の向上
計画名	野崎高校 生徒全員Light Up!作戦 ～生徒一人ひとりがスポットライトを浴びて主役になれる舞台づくりにより、自尊感情にLight Up!～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	3 高校生として必要な規範意識や社会性、人権尊重の精神等の育成に努め中退防止を図るとともに、すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを推進する (2) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。 (3) 学校全体で生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させるとともに、部活動、生徒会活動を活性化し、自立心や主体的に行動する態度を養う。 ※平成30年度までに生徒の卒業率を5%向上させる。 ※平成30年度までに学校教育自己診断「学校へ行くことが楽しい」「担任以外に相談できる教員がいる」の項目を70%以上にする。		
事業目標	「生徒一人ひとりを大切にする学校」として生徒全員の自己実現を支援するため、従来より実践している学力向上・進路実現の取組みに併せ、学習意欲・進路実現意識の土台となる 自尊感情のさらなる育成を目標 とする。そのために、生徒主体の学校行事の更なる推進を図る。具体的には、体育館舞台における舞台・照明・音響等の設備を充実させ、生徒が文化祭や総合的な学習の時間等における舞台発表へ向け意欲的に取り組みやすい環境を整える。演出・キャスト・照明・音響など、舞台発表の際に必要な役割の多様化・明確化を図ることで、舞台発表に取り組む生徒集団に自己決定・集団決定の機会を与え、自治を実感させる。行事の成功という共通目的を達成するために生徒一人ひとりが自らの役割を「 自律 」的に担い、他者との協働により「 自主 」性を養い、「 創造 」的な行動力を高めるための仕掛けを作ることで、 生徒の自己有用感・自己肯定感の向上を図る 。行事を通して生徒の「挑戦することができた」「他人の役に立った」「他人に喜んでもらった」という経験を促し、実社会につながる学びの機会を与えることで、生徒の学習意欲・進路意識の向上を図り、自己受容・自己決定に基づく進路実現につなげる。(校訓「自律」「自主」「創造」) ※生徒の卒業率を毎年3%向上させるとともに、学校教育自己診断における生徒の入学満足度を毎年2%向上させる。		
取組みの概要	導入・整備する 設備・物品	Horizont幕1、張りだし舞台、調光操作卓1、LEDスポットライト11、 ボウダーライトコントロール設置、照明延長ケーブル、LEDフットライト8等 (設置場所は、すべて体育館舞台関係)	
	取組内容	前年度	学校経営計画を実現するための取組みをプロデュースするためのプロジェクトチーム「Jump Up! PT」を立ち上げ、様々な課題発見・解決に取り組んでいる。府教育委員会「育成支援チーム」事業を活用し、ミドルリーダー育成・学校組織力向上を目的とした校内教員研修を実施(7・10・12月)する中で、Jump Up PTと連動し、めざす生徒像から学校の課題を考え、その課題を解決する取組みを策定する中で、授業改善・進路実現とともに 自尊感情の育成を学校課題の1つとして意識化した 。その後、研修に参加した教員が中心となり、生徒会役員・部活動代表・体育大会応援団代表候補などの生徒30名を対象に「生徒リーダー研修」を実施し、リーダーシップについて考えるグループワークなどを実施した(3月)。
		初年度	Jump Up! PTと生徒指導部が連携し、生徒会を運営主体とする「生徒リーダー研修」「生徒ピア・サポート研修」を企画し、部活動代表・体育大会応援団代表・クラス代表などに対象を広げ実施する(6～8月)。舞台設備にかかる先進事例視察(6～9月)、演劇等の舞台発表を特色とする学校の文化祭等を複数教員及びリーダー生徒で視察(6～9月)。文化祭実行委員会における舞台小委員会を拡大し、演出・キャスト・照明・音響等の各講習会を実施(7～10月)。その後も次年度以降に向け舞台装置の効果的な使用方法について教員・生徒対象の研修を重ねる(12月～2月)。学校教育自己診断の実施により本年度の取組みを評価し、次年度に向けた活用方法を検討する(1～3月)
		2年目	「生徒リーダー研修」「生徒ピア・サポート研修」を実施する(4～7月)。Jump Up! PT・生徒指導部等が連携し、総合的な学習の時間を活用した全校生徒に対する系統的な「ピア・サポートプログラム」を企画する(4月～12月)。新入生歓迎や卒業生送別に係る生徒会行事等をはじめ、年間を通して生徒による効果的な舞台活用の機会を設ける(4～3月)。文化祭で舞台発表に取り組むクラスを増加させるとともに、舞台小委員会における演出・キャスト・照明・音響等の各講習会を生徒会が主体となり実施する(7～10月)。学校教育自己診断の実施により本年度の取組みを評価し、次年度に向けた活用方法を検討する(1～3月)
		3年目	「生徒リーダー研修」「生徒ピア・サポート研修」を実施する(4～7月)。総合的な学習の時間を活用し、全校生徒に対する「ピア・サポートプログラム」を実施する(4月～3月)。年間を通じ、生徒会行事・部活動・授業等、生徒の様々な取組みにおける成果をプレゼンテーション等により可視化し達成感を与える場として、舞台設備をより循環的・効果的に活用する(4月～3月)。文化祭においては3年全クラスが舞台発表を行うこととし、文化祭に向けた舞台小委員会における演出・キャスト・照明・音響等の各講習会を生徒会が主体となり実施するとともに、3年生から1・2年生への伝達講習の機会とする。(7～10月)。発表会・報告会の開催(外部への情報発信)、次年度に向けた活用方法を検討する(1～3月)
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：Jump Up! PT(首席、学校経営改善PT、運営委員会・文化祭実行委員会・生徒指導部・担任等から担当者) 実施者：全教員		
成果と 評価 指証 方法	初年度	① 中途退学率を前年度比3%減少させる(平成27年度卒業生15.8%) ② 第1・2学年における進級率をそれぞれ前年度比3%向上させる ③ 卒業率を前年度比3%向上させる(平成27年度比84.2%) ④ 学校教育自己診断における「学校へ行くことが楽しい」を前年度比2%向上させる(平成27年度66.9%)	
	2年目	① 中途退学率を前年度比3%減少させる ② 第1・2学年における進級率をそれぞれ前年度比3%向上させる ③ 卒業率を前年度比3%向上させる ④ 学校教育自己診断における「学校へ行くことが楽しい」を前年度比2%向上させる	
	3年目	① 中途退学率を前年度比3%減少させる ② 第1・2学年における進級率をそれぞれ前年度比3%向上させる ③ 卒業率を前年度比3%向上させる ④ 学校教育自己診断における「学校へ行くことが楽しい」を前年度比2%向上させる	

学校番号

221

3. 事業費

事業費総額	5,631,091	円
-------	-----------	---

積算内訳

科目(節)	番号	内訳	1年目	2年目	3年目	単価	数量	金額
1 報償費	1	演劇等の舞台発表に係る研修講師謝金	○			¥50,000	2	¥100,000
	2	演劇等の舞台発表に係る研修講師謝金		○		¥50,000	1	¥50,000
	3							
							小計	¥150,000
2 旅費	1	先進事例視察(管内)	○			¥1,000	20	¥20,000
	2							
	3							
							小計	¥20,000
3 消耗需用費	1	DMX信号分配器				¥58,476	1	¥58,476
	2	DMX信号ケーブル式				¥228,868	1	¥228,868
	3	LEDスポット用スタンド				¥26,989	11	¥296,881
	4	LEDスポットライト用ケーブル式				¥375,690	1	¥375,690
	5	LEDフットライト(ホリゾンライト兼用)				¥80,968	8	¥647,740
	6	LEDフットライト用ケーブル				¥8,020	7	¥56,138
	7	張り出し舞台移動用台車				¥37,800	2	¥75,600
	8							
							小計	¥1,739,393
4 維持需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
5 役務費	1							
	2							
	3							
							小計	
6 委託料	1							
	2							
	3							
							小計	
7 使用料 及び賃借料	1							
	2							
	3							
							小計	
8 備品購入費	1	ホリゾン幕				¥420,120	1	¥420,120
	2	調光操作卓				¥205,118	1	¥205,118
	3	LEDスポットライト(仮設置費等込)				¥200,783	11	¥2,208,616
	4	張り出し舞台				¥599,044	1	¥599,044
	5							
							小計	¥3,432,898
9 工事請負費	1	ポーターライトコントロールスイッチの設置				¥388,800	1	¥388,800
	2							
	3							
							小計	¥388,800
10 負担金・補助 及び交付金	1							
	2							
	3							
							小計	
							合計	¥5,631,091

積算内訳